

W・M・ヴォーリスの遺した

ミッション建築探訪

： 関西学院大学・神戸女学院

建築家W・M・ヴォーリスによるミッション建築が西宮にあります。

関西学院大学・神戸女学院ともにスパニッシュミッション様式で、

美しい模様を施された建物が華やかさを醸し出しています。



神戸女学院
 ●通常は非公開に指定されています。見学を希望の方は下記までお問い合わせください。
 連絡先
 神戸女学院 総務課
 TEL: 0798-51-8505



関西学院大学
 ●見学を希望の方は下記までお問い合わせください
 連絡先
 関西学院・広報室
 TEL: 0798-54-6017

関西学院大学

神戸女学院

甲山をバックに明るい色調の南欧を思わせる時計台が迎えてくれます。昭和の初めに原田の森(王子公園)から移転した際、中央芝生を中心に設計されたスパニッシュミッション形式のキャンパスです。関西学院のシンボルである時計台は、元は図書館でしたが、現在は学院史編纂室などとして活用されています。

岡田山キャンパスへ移転したのが1933(昭和8)年。ヴォーリスは日頃から「学舎が学生を教育する」と語りました。彼は瓦や手すりのデザインに至るまで細かく指示しましたが、他方、廊下や教室の片隅に「あそび」のスペースを用意し、学生・教職員の参加意識を引き出そうとしたと言われます。このキャンパスは、受け身ではない、自発的な学びを組み立てるよう造られています。

※神戸女学院ホームページより抜粋



ウィリアム・メレル・ヴォーリス

William Merrell Vories

一柳米来留 (ひとつやなぎめれる)
 [1880~1964]

アメリカより英語教師として、外国伝道の思いに駆られ、運命に導かれ来日しました。1908年、京都YMCAの一室で建築設計事務所を立上げ、その後、建材やオルガンの輸入、販売などを行なった「近江セールズ」を設立、のちにそれが「近江兄弟社」となり、メンロータム(現メンターム)を全国に広めました。他にも結核療養所の開設、伝道だけでなく出版など多くの文化事業を行い、夫人とともに教育事業も起こしました。ヴォーリス建築事務所が手掛けた建築は全国各地に点在し、住宅から学校、教会、デパートメントやホテル、オフィスまで幅広く、その数は戦前だけでも1400有余を数えることができます。太平洋戦争開戦以前、多くの外国人が日本を離れる中でも、日本への帰化を選択。一柳米来留 (ひとつやなぎめれる)と改名し、生涯を閉じるまでこの地に留まることを選びます。それらすべての事業は収益だけを目的とせず、「様々な職業を通じて、人間生活の基準となるような、キリスト的生活を徹底的に実践すること」が根本理念で、伝道そのものでした。ヴォーリスの持つヒューマンスケールの建築理念には、温かい人柄が香り、その魅力は長い年月を経た今も多くの人の心を捉えて離しません。その作風は、人を驚かせるかのような建築家の自己主張をよとせず、建築依頼者の求めに相応しい様式を選択し、その応用と近代的な改善を施すことに努め、住み心地の良い、健康を護るに良い、能率的建物を目指しました。

※一粒社ヴォーリス建築事務所ホームページより抜粋